

「第5次基山町総合計画」

後半（R3～R5）

進捗度評価報告書

目次

【第5次基山町総合計画の体系】	1
【目標指針の進捗状況】	2
【進捗度評価の手法について】	3
【進捗度評価結果】	4
【計画全体とまちづくりの方向性】	8
【施策体系の評価】	9
【施策の方向性ごとの成果と課題】	11

令和6年4月

【第5次基山町総合計画の体系】

○第5次基山町総合計画では、『アイが大きい基山町～住む人にも訪れる人にも満足度 No.1 のまち基山の実現～』を将来像に掲げています。

○この将来像を実現するために、5つのまちづくりの方向性とそれに紐づく「施策体系」と「こんな基山にしよう（めざす姿）」、「具体的な施策」を掲げています。

■計画の体系

基本構想	まちづくりの方向性	施策体系	こんな基山にしよう（めざす姿）数	具体的な施策数
アイが大きい基山町 住む人にも訪れる人にも満足度 No.1 のまち基山の実現	1 自然+idea 基山町の自然と開発が調和したまち	(1) 土地利用	3	11
		(2) まちなみ環境	4	13
		(3) 集客拠点整備	2	9
		(4) 交通基盤整備	2	5
	2 教育+idea オール基山で人を育てる教育力の高いまち	(1) 学校教育	3	10
		(2) 基山式まなび	4	8
		(3) スポーツ	4	6
		(4) 文化財の利活用	2	6
	3 にぎわい+idea 「基山発」を生み出すアイデアのあるまち	(1) 農林業	4	7
		(2) 工業	3	9
		(3) 商業	4	10
		(4) 観光	2	12
		(5) 基山発	3	6
	4 安心安全+idea 基山町に住む人を大切にするまち	(1) 子育て支援	2	11
		(2) 高齢者支援	2	9
		(3) 障がい者（児）支援	1	7
		(4) 健康・医療	2	7
		(5) 防犯・防災	2	8
	5 協働+idea 基山町のために結束できるまち	(1) まちの結束	2	4
		(2) 人権・男女共同参画	2	4
		(3) 情報公開	3	4
		(4) 行財政	4	14

※以降、本報告書では、便宜上「こんな基山にしよう」を「めざす姿」として置き換えています。

【目標指針の進捗状況】

○第5次基山町総合計画で設定した目標指針の進捗状況は、以下のとおりです。

方向性	施策体系	指標名	H26年度	5年後(R2) 目標値	R2年度	R5年度	10年後(R7) 目標値	目標指標 達成状況
1 自然+idea 基山町の自然と開発が調和したまち								
	(1)土地利用	新たな人口を呼び込むための土地活用への取組(満足度指数)	35.4%	40%	50.2%	55.1%	50%	◎
	(2)まちなみ環境	自然環境を守るための循環型社会への取組(満足度指数)	65.3%	70%	68.2%	67.9%	80%	△
	(3)集客拠点整備	基山駅など魅力的な集客拠点づくりへの取組(満足度指数)	35.5%	40%	48.0%	54.8%	50%	◎
	(4)交通基盤整備	交通手段の整備などの利便性向上への取組(満足度指数)	60.4%	70%	54.3%	56.7%	80%	●
2 教育+idea オール基山で人を育てる教育力の高いまち								
	(1)学校教育	基礎学力向上や地域などが協力する学校教育への取組(満足度指数)	54.3%	60%	64.1%	66.4%	70%	●
	(2)基山式まなび	図書館入館者数(貸出延べ人数)	24,256人	60,000人	47,492人	57,604人	70,000人	△
	(3)スポーツ	町民がスポーツを楽しめるようなイベントを増やす取組(満足度指数)	62.8%	70%	63.3%	66.2%	80%	●
	(4)文化財の利活用	文化財の保護・継承への取組(満足度指数)	64.0%	70%	64.9%	69.1%	80%	●
3 にぎわい+idea 「基山発」を生み出すアイデアのあるまち								
	(1)農林業	農産物ブランド化などによる収益性の高い農林業への取組(満足度指数)	35.0%	40%	45.8%	48.9%	50%	●
	(2)工業	企業用地など情報登録件数	—	5件	6件	8件	10件	●
	(3)商業	中心商店街における空き店舗数	21件	15件	17件	17件	10件	○
	(4)観光	地域資源の情報発信(シティプロモーション)への取組(満足度指数)	31.9%	40%	38.5%	42.9%	50%	●
	(5)基山発	ホームページのアクセス件数	217,963件	250,000件	383,443件	326,935件	300,000件	◎
4 安心安全+idea 基山町に住む人を大切にすまち								
	(1)子育て支援	誰もが安心して子どもを産み育てる環境への取組(満足度指数)	49.4%	55%	61.6%	63.5%	60%	◎
	(2)高齢者支援	地域包括支援センターの相談件数	1,484件	2,000件	1,742件	2,110件	2,500件	●
	(3)障がい者(児)支援	一人ひとりに合った福祉サービスの提供や地域の理解促進への取組(満足度指数)	43.7%	50%	52.0%	54.1%	60%	●
	(4)健康・医療	健康づくりの強化や地域医療体制の充実への取組(満足度指数)	59.1%	65%	65.0%	68.9%※	70%	●
	(5)防犯・防災	消防団員数	188人	197人	189人	171人	197人	△
5 協働+idea 基山町のために結束できるまち								
	(1)まちの結束	隣近所と付き合いがあると回答した割合	65.7%	70%	58.1%	59.4%	75%	●
	(2)人権・男女共同参画	町民一人ひとりの人権意識の向上への取組(満足度指数)	48.3%	55%	54.3%	56.8%	60%	●
	(3)情報公開	広報等町民の立場に立った情報提供への取組(満足度指数)	63.4%	70%	70.1%	72.5%	80%	●
	(4)行財政	住民ニーズに対応した行財政運営による町民満足度向上への取組(満足度指数)	42.6%	50%	55.3%	58.0%	60%	●

※「町民が主体的にコミュニティ活動等を行い、団体同士の連携強化への取組」の満足度指数にて評価

◎評価…最終目標達成

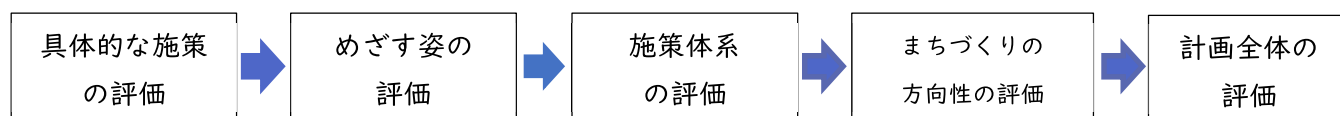
●評価…目標未達成だが上昇傾向

○評価…目標未達成で変化なし

△評価…目標未達成で下降傾向

【進捗度評価の手法について】

○本報告書では、計画全体及び、5つの「まちづくりの方向性」、「施策体系」、「めざす姿」についての進捗度を評価します。



STEP1

○「第5次基山町総合計画」の「具体的な施策」の実施状況を、それぞれの担当課及び基山町総合計画策定プロジェクトチーム会議により以下の3段階で評価を行いました。

実施状況 評価	A 評価:計画の80%以上を達成しているもの B 評価:計画の50%以上を達成しているもの C 評価:計画の達成度が50%未満のもの、未達成のもの
------------	---

STEP2

○「具体的な施策」の評価に基づいて、めざす姿の評価、施策体系の評価、施策の方向性の評価、計画全体の評価を行いました。

○「めざす姿」の評価は、それに紐づく具体的な施策から、以下のとおり算出しています。

- ・達成率＝A評価施策数／具体的な施策数
- ・実施率＝（A評価＋B評価施策数）／具体的な施策数

○「施策体系」の評価は、それに紐づく全ての具体的な施策から、以下のとおり算出しています。

- ・達成率＝A評価施策数／具体的な施策数
- ・実施率＝（A評価＋B評価施策数）／具体的な施策数

○「まちづくりの方向性」の評価は、それに紐づく施策体系から、以下のとおり算出しています。

- ・達成率＝施策体系達成率計／施策体系数
- ・実施率＝施策体系実施率計／施策体系数

○「計画全体」の評価は、5つのまちづくりの方向性の平均値により算出しています。

【進捗度評価結果】

○「第5次基山町総合計画」の「まちづくり方向性」「施策体系」「めざす姿」の達成率、実施率は以下のとおりです。

	達成率	実施率
1 自然+idea 基山町の自然と開発が調和したまち	70.0%	100.0%
(1) 土地利用	81.8%	100.0%
基山(きざん)や基肄城などの基山が誇るべき自然と、中心市街地などへの都市機能の集積によるコンパクトなまちづくりを調和しよう。	80.0%	100.0%
利便性の高い都市環境を形成し、有効な土地の活用をめざそう。	75.0%	100.0%
農地を集積し、耕作しやすい農地利用をめざそう。	100.0%	100.0%
(2) まちなみ環境	69.2%	100.0%
間伐などの森林整備や治水対策により、自然災害などに強い山林河川づくりをめざそう。	0.0%	100.0%
子どもたちが安全に遊べる山、ホタルや野鳥が飛び交う水辺など基山町の自然とふれあえる環境を守り、自然との共生をめざそう。	100.0%	100.0%
環境問題への理解と町民一人ひとりの環境保全への意識を高め、住民と行政の協働による住みよいまちづくりをめざそう。	85.7%	100.0%
低炭素社会に適応した循環型の暮らしが実現できるまちにしよう。	50.0%	100.0%
(3) 集客拠点整備	88.9%	100.0%
わかりやすい案内表示などにより、町外から訪れる人にもやさしいまちをめざそう。	100.0%	100.0%
基山駅及び基山 PA 周辺を集客拠点の中心と位置づけ、各集客拠点とを結ぶことで交流人口を増加させ、多くの人々が行き交う「住む人にも訪れる人にも満足度 No.1 のまち基山」をめざそう。	83.3%	100.0%
(4) 交通基盤整備	40.0%	100.0%
隣接市と接続された防災に強い、安全な道路網の整備をめざそう。	33.3%	100.0%
地域公共交通とコミュニティバスの運行を連携し、生活の利便性が向上する地域間のやさしい道路形成をめざそう。	40.0%	100.0%
2 教育+idea オール基山で人を育てる教育力の高いまち	87.5%	100.0%
(1) 学校教育	50.0%	100.0%
児童生徒の自主的な学習意欲の高揚や学習習慣の確立及びICT利活用教育により基礎学力の定着と総合的な体力の向上をめざそう。	50.0%	100.0%
社会体験や基山町の歴史と文化に触れるなどの活動を通じ、学校と家庭や地域、図書館と連携・協力を図りながら、児童生徒の豊かな人間性や社会性を育もう。	60.0%	100.0%
障がいのある児童生徒一人ひとりが、ニーズに合った教育を受けられるような体制をめざそう。	0.0%	100.0%
(2) 基山式まなび	100.0%	100.0%
自らのスキルや知識・経験・才能を生かした学びと交流のあるまちづくりによって、生きがいとゆとりを感じることができるまちにしよう。	100.0%	100.0%
それぞれの分野や世代が得意とする技術や知識を紹介し、今の時代に生かす工夫をしよう。	100.0%	100.0%

	達成率	実施率
多世代が交流し、世代相互の学びのあるまちとして刺激を受け合い、町全体のコミュニティを活性化し、住んでいる人が自ら輝くまちをつくろう。	100.0%	100.0%
わたしたちのまち基山の歴史や文化にふれる機会を創出し、郷土学習とともに地域力UPや郷土愛の育成につなげよう。	100.0%	100.0%
(3) スポーツ	100.0%	100.0%
地域と連携し、町民だれもが健康でスポーツを楽しめるまちをめざそう。	100.0%	100.0%
スポーツを通して他地域との交流・親睦を図ろう。	100.0%	100.0%
基山町で開催される各種スポーツイベントを積極的に支援して、町のイメージアップや地域おこしにつなげよう。	100.0%	100.0%
基山町から日本や世界で活躍できるスポーツ選手を育成しよう。	100.0%	100.0%
(4) 文化財の利活用	100.0%	100.0%
郷土の先人たちにより、守り受け継がれてきた誇りある文化財（文化遺産）を保全し、みんなで学び親しみながら次世代へ伝えていこう。	100.0%	100.0%
貴重な文化や歴史をまちづくりの一つのツールとして観光をはじめ様々な分野で活用し、町内外の人に共感していただくような活動を推進していこう。	100.0%	100.0%
3 にぎわい+idea 「基山発」を生み出すアイデアのあるまち	87.8%	100.0%
(1) 農林業	57.1%	100.0%
担い手農家や認定農業者、農業経営に意欲のある農業者に対して農地集積を推進し、農地を地域で管理できる農業をめざそう。	66.7%	100.0%
遊休農地及び耕作放棄地の解消のため、高齢農業者や離農者からの農地の貸借を推進し、農地の適正な維持管理をめざそう。	66.7%	100.0%
福岡都市圏への近接性を活かし、農産物のブランド化、六次産業化（農園レストラン、ミニ直売所、体験・観光農園など）を図り、収益性の高い農業をめざそう。	50.0%	100.0%
ふるさと納税、ギフトブック、通販などを活用して、町の特産物の育成、発掘に力をいれよう。	50.0%	100.0%
(2) 工業	100.0%	100.0%
利便性の高い地域特性を活かし、関係機関との連携を強化して地域に根ざした未来を担う企業の誘致をめざし、人口増加やにぎわいにつなげよう。	100.0%	100.0%
個別企業支援、企業間のネットワーク構築に力をいれるとともに、持続的な企業経営を支援しよう。	100.0%	100.0%
地域の中小企業への若者の就職を推進するため、インターンシップや就労マッチングを進め、「働く場のあるまち」にしていこう。（町のハローワーク機能を強化）	100.0%	100.0%
(3) 商業	90.0%	100.0%
商店街や商工会が安定した運営を行える活気のある商業のまちにしよう。	100.0%	100.0%
商工会の連携により、各種の集客活動を展開して地元店舗の体質強化をめざそう。	100.0%	100.0%
基山駅前周辺やモール商店街を中心に活気ある環境づくりをめざそう。	100.0%	100.0%
買い物が困難な住民がよりよく商店を利用できる工夫をしよう。	50.0%	100.0%
(4) 観光	91.7%	100.0%
町民、観光協会、商工業者、農林業者、行政が連携しながら地域資源をブランド化し、シティプロモーションを推進しよう。	88.9%	100.0%

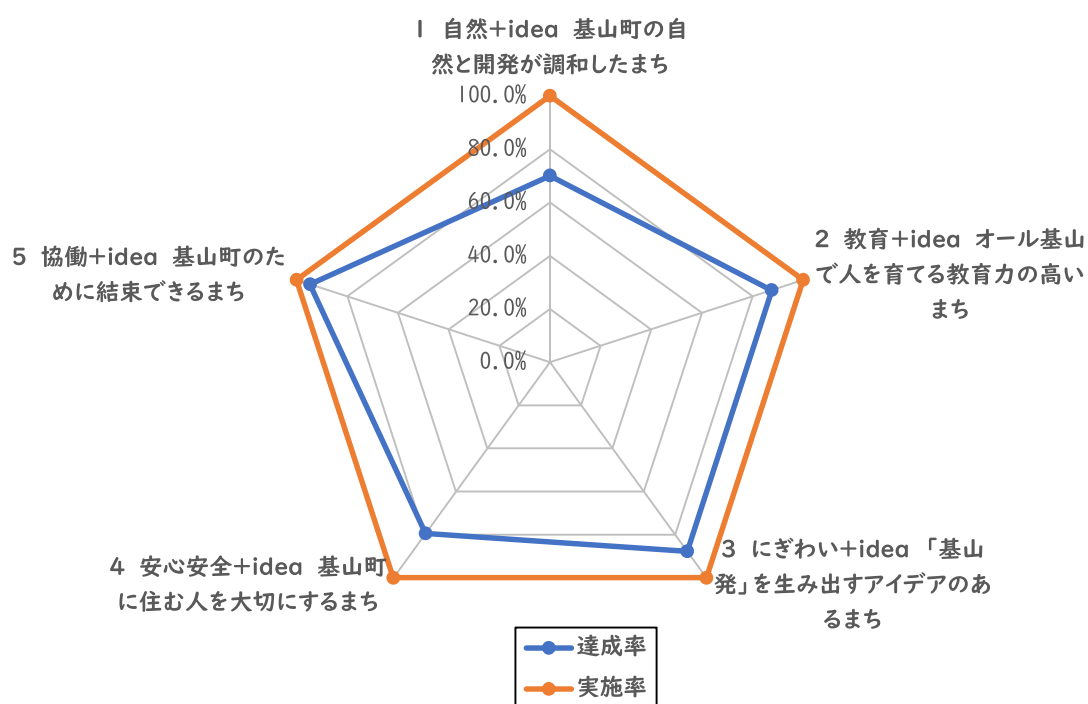
	達成率	実施率
観光客や立ち寄り客などを受け入れるおもてなしの体制を町全体で高めていこう。	100.0%	100.0%
(5) 基山発	100.0%	100.0%
町内の情報環境整備に取り組み、複数のメディアを活用した幅広いPRをめざそう。	100.0%	100.0%
町のホームページなどエンターテインメント性をもって、見て楽しめるものをつくろう。	100.0%	100.0%
町民や基山町出身者、みんなで魅力ある基山町の情報を町外へ発信し、「基山町へ行ってみたい」、「基山町に住んでみたい」という地域ブランドづくりをめざそう。	100.0%	100.0%
4 安心安全+idea 基山町に住む人を大切にすまち	79.5%	100.0%
(1) 子育て支援	90.9%	100.0%
保育を必要とする保護者へ多様な保育環境の提供、子育て中の保護者への支援の充実を図ろう。	100.0%	100.0%
妊娠・出産・育児をめぐる不安を解消し、だれもが安心して子どもを生み育てることができるような環境を地域ぐるみでめざそう。	88.9%	100.0%
(2) 高齢者支援	77.8%	100.0%
高齢者の体力づくりと介護予防の推進により高齢者の積極的な社会参加を促し、健康や生活に不安がなく、元気な高齢者が生きがい（楽しみ、役割）を持って、笑顔で住めるまちをめざそう。	75.0%	100.0%
高齢者をはじめ、全ての町民にとって暮らしやすいユニバーサルデザインによるまちづくりをめざそう。	100.0%	100.0%
(3) 障がい者（児）支援	85.7%	100.0%
障がい者（児）一人ひとりのニーズに合ったきめ細やかな福祉サービスを提供し、地域で生きがいを持って暮らせるまちをめざそう。	85.7%	100.0%
(4) 健康・医療	42.9%	100.0%
町民一人ひとりが健康管理や病気の予防に取り組みながら、健康な暮らしができるまちをめざし、各種健診による予防体制を強化し健康寿命の向上による元気な基山をつくろう。	0.0%	100.0%
感染症予防や医療体制を確保し、町民が安心して日常生活が送ることができるまちをめざそう。	100.0%	100.0%
(5) 防犯・防災	100.0%	100.0%
近年の犯罪の多様化に対応するための国・県・町・地域一体となった防犯活動を推進しよう。	100.0%	100.0%
地震や豪雨などの自然災害に備えるため、ハード、ソフト両面から災害対策を推進するまちをめざそう。	100.0%	100.0%
5 協働+idea 基山町のために結束できるまち	94.6%	100.0%
(1) まちの結束	100.0%	100.0%
全ての町民が自発的にコミュニティ運営に参加できるようなコミュニティづくりをめざそう。	100.0%	100.0%
まちづくりのネットワークを通して地域の課題に協働して取り組み、個性豊かで活力に満ちたまちづくりをめざそう。	100.0%	100.0%
(2) 人権・男女共同参画	100.0%	100.0%
町民だれもが人権に関する正しい知識を持ち、家庭・地域・職場・学校などのそれぞれの場面で、思いやりを持って人と接する気持ちを育み、最優先されるべき基本ルールとして日常生活の中に人権意識を定着させよう。	100.0%	100.0%

	達成率	実施率
男女が性別に関わりなくその個性と能力を十分に発揮できるような社会をめざそう。	100.0%	100.0%
(3) 情報公開	100.0%	100.0%
町政への理解を深められるように、個人情報保護に配慮しながら積極的な行政情報の提供と情報公開をめざそう。	100.0%	100.0%
町民への浸透性も非常に高く町民の認知度も高い広報「きやま」を、世代や性別を問わず町民と行政をつなぐ最も基本的な情報媒体として、町民の意見も踏まえながら質の向上をめざそう。	100.0%	100.0%
町民が参加しやすい広聴会を開催し、みんなで情報を共有できるまちをめざそう。	100.0%	100.0%
(4) 行財政	78.6%	100.0%
単独自治体として運営可能な財政基盤の確立をめざそう。	66.7%	100.0%
職員の能力を最大限に引き出す人材育成をめざそう。	-	-
町民のニーズに臨機応変に対応できる効率的な行政運営を行い、町民と行政が協働して進めるまちづくりをめざそう。	100.0%	100.0%
基山町の役割に応じた広域行政の連携を強化し、連携事業を推進することにより、圏域の一体的な発展をめざそう。	100.0%	100.0%
計画全体	83.9%	100.0%

【計画全体とまちづくりの方向性】

- 計画全体の達成率は83.9%、実施率は100.0%で概ね計画とおりの進捗であると評価できます。
- まちづくりの方向性ごとにみると、最も達成率が高いのは「5 協働+idea 基山町のために結束できるまち」で94.6%、最も低いのは「1 自然+idea 基山町の自然と開発が調和したまち」で70.0%となっています。

まちづくりの方向性	達成率	実施率
1 自然+idea 基山町の自然と開発が調和したまち	70.0%	100.0%
2 教育+idea オール基山で人を育てる教育力の高いまち	87.5%	100.0%
3 にぎわい+idea 「基山発」を生み出すアイデアのあるまち	87.8%	100.0%
4 安心安全+idea 基山町に住む人を大切にするまち	79.5%	100.0%
5 協働+idea 基山町のために結束できるまち	94.6%	100.0%
計画全体	83.9%	100.0%

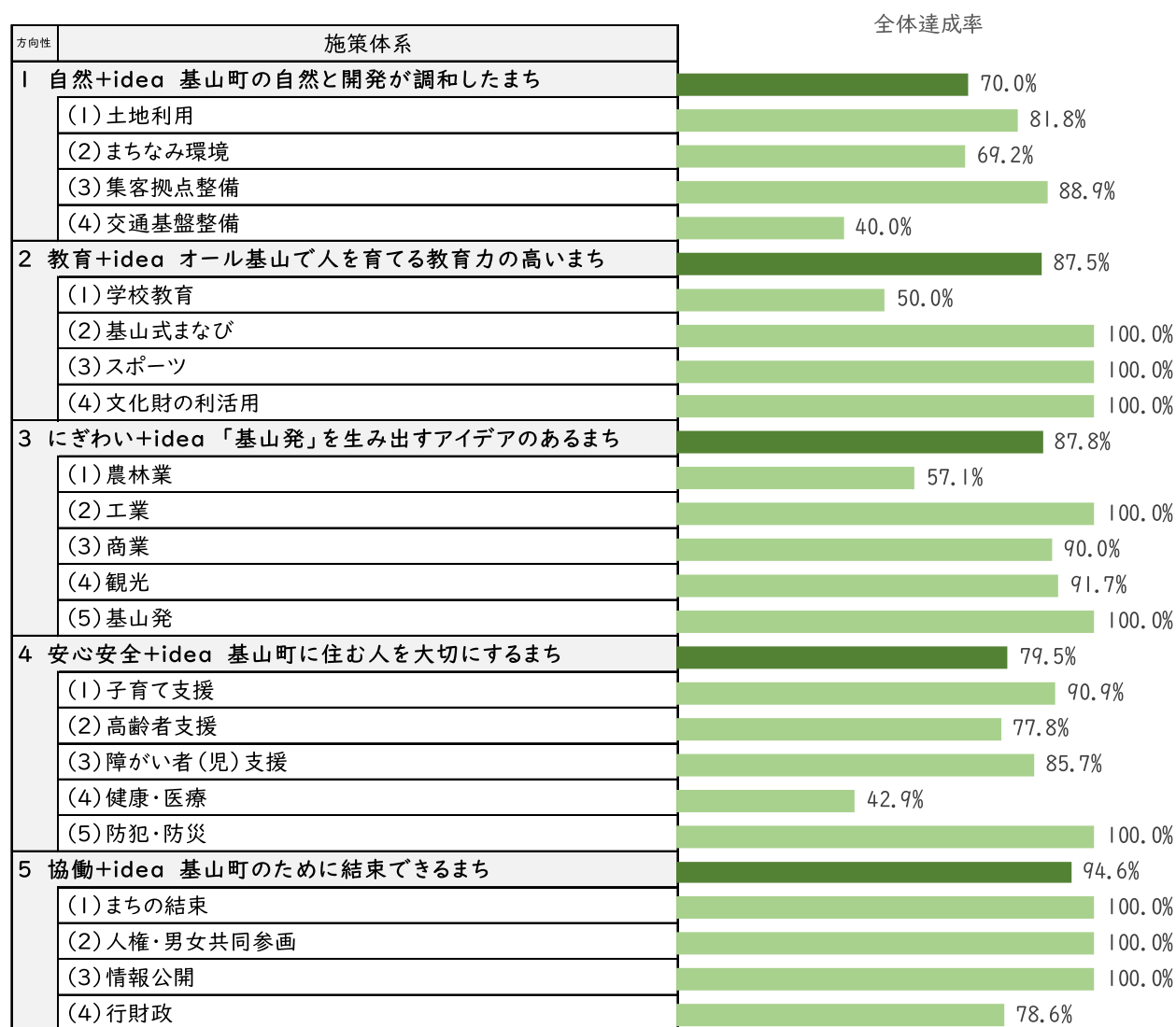


【施策体系の評価】

■達成率

○施策体系で達成率が100%のものは以下の9施策です。

- 「2 教育+idea オール基山で人を育てる教育力の高いまち」
 ➡ (2) 基山式まなび、(3) スポーツ、(4) 文化財の利活用
- 「3 にぎわい+idea 「基山発」を生み出すアイデアのあるまち」
 ➡ (2) 工業、(5) 基山発
- 「4 安心安全+idea 基山町に住む人を大切にするまち」
 ➡ (5) 防犯・防災
- 「5 協働+idea 基山町のために結束できるまち」
 ➡ (1) まちの結束、(2) 人権・男女共同参画、(3) 情報公開



■実施率

○施策体系の実施率は全て 100%となっています。

方向性	施策体系	全体実施率
1	自然+idea 基山町の自然と開発が調和したまち	100.0%
	(1)土地利用	100.0%
	(2)まちなみ環境	100.0%
	(3)集客拠点整備	100.0%
	(4)交通基盤整備	100.0%
2	教育+idea オール基山で人を育てる教育力の高いまち	100.0%
	(1)学校教育	100.0%
	(2)基山式まなび	100.0%
	(3)スポーツ	100.0%
	(4)文化財の利活用	100.0%
3	にぎわい+idea 「基山発」を生み出すアイデアのあるまち	100.0%
	(1)農林業	100.0%
	(2)工業	100.0%
	(3)商業	100.0%
	(4)観光	100.0%
	(5)基山発	100.0%
4	安心安全+idea 基山町に住む人を大切にするまち	100.0%
	(1)子育て支援	100.0%
	(2)高齢者支援	100.0%
	(3)障がい者(児)支援	100.0%
	(4)健康・医療	100.0%
	(5)防犯・防災	100.0%
5	協働+idea 基山町のために結束できるまち	100.0%
	(1)まちの結束	100.0%
	(2)人権・男女共同参画	100.0%
	(3)情報公開	100.0%
	(4)行財政	100.0%

【施策の方向性ごとの成果と課題】

○施策の方向性ごとの主な取組状況・今後の課題は以下のとおりです。

取組状況	今後の課題
I 自然+idea 基山町の自然と開発が調和したまち	
(1) 土地利用	
定住プロモーション活動として「町内おもてなしマップ」を作成し、町内外に対する基山町の魅力発信に努めた。 基山町都市計画マスタープランの改訂を行い、町内の土地利用の方針について整理を行い、計画的に土地利用を進めている。 50戸連たんの実施に向け、住民説明会を行った。	旧公民館跡地を含めた町有地の高齢者専用住宅などの人口増対策用地としての活用について検討をする必要がある。
(2) まちなみ環境	
基山町公式LINEアカウントを活用し、ごみ・資源物の分別検索ができるようにした。また、製品プラスチックの分別回収に取り組んでいる。 低炭素社会に向けた取り組みとして、EVカーシェア事業を始めた。	アダプト・プログラムでは、高齢化等の理由により辞退する方が多くなっており、加入者を増やす工夫をする必要がある。 再生可能エネルギー導入検討調査を実施し、再エネ導入の可能性調査を行い、太陽光発電、バイオマスの導入可能性が高いことから、導入に向けた計画策定を進め、低炭素社会の実現を目指す。
(3) 集客拠点整備	
町外からの来訪者に向けて、町境の主要幹線道路付近に基山町をPRする看板や主要駅から基山町内の観光スポット等への案内サインを設置した。 基山駅空きスペースを利用して、ビジターセンターとなる「えきたらウンジ」を整備し、観光や地域情報の発信を行っている。 基山駅自由通路にコインロッカーを設置する基山町観光協会に対して補助金を交付し、基山町の観光地等へ基山駅を利用して訪れる方の利便性の向上を図った。 機能的な交通ネットワークを実現するために、きやま地方創生モビリティ研究会が主体となり、デマンド交通の実証実験が行われた。 図書館の入館者が100万人を達成し、貸出冊数もコロナ禍には減少したものの、全国同規模の図書館の中で、全国一位を維持している。	スマートフォンの地図データと関連づけ、より利便性の高い案内表示を行っていく必要がある。 「基山町中心市街地活性化基本計画」を引き継ぎ、4商店会を中心とした「基山町商店街等活性化委員会」において、商店街等の活性化に向けて取り組む必要がある。 新たな交通体系（デマンド交通等）の導入について検討を行う。 新たな集客施設として、観光農園などの誘致に取り組む必要がある。
(4) 交通基盤整備	
基山町橋梁個別施設計画を改訂し、新技術の活用や橋梁の集約化・撤去によるコスト縮減を追記した。 毎年、通学路点検を実施しており、点検結果をもとに必要な箇所にカラー舗装、防護柵などの交通安全施設の整備を行っている。	今後、建設から50年を超える橋梁が増えてくることから、道路法により義務付けられている定期点検による確実な状況把握を行う必要がある。 都市計画道路の未整備区間としてIか所残っている黒谷線（グリーンパーク突き当たりから宮浦インター部分まで）については、計画的に整備を推進していく必要がある。

取組状況	今後の課題
	今後、全体的にコミュニティバスの運行の見直しや新たなモビリティサービスの導入を行う際には、他自治体と連携したネットワーク構築を検討する必要がある。
2 教育+idea オール基山で人を育てる教育力の高いまち	
(1) 学校教育	
学力向上対策コーディネーターを中心に、全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査の結果を分析し、結果や課題について共通理解し、課題解決に向けた授業改善を行っている。 「基山町少年スポーツ育成協議会」からの指導者派遣に取り組み、学校部活動に地域指導者が参画できるようにし、部活動の地域移行化に取り組んでいる。	地域の指導者が中学校の部活動に関わっていく体制づくりが必要である。 食育においても、地域の方々の関わりが必須であり、この関わりを絶やさないために、関係各課との連携が必要である。 地域の文化遺産等を活用し、授業や創作劇などの取り組みをさらに充実させていきたい。小中一貫教育「きやま学」部会を通して学校教育の中でも、地域人材を活用して、きやまの歴史や文化について効果的に、系統立てて学習ができるよう検討を重ねていく。
(2) 基山式まなび	
図書館では、スマートフォンの普及に伴う利用増進のための教室を開催した。さらに、貸出中の図書に関しては、インターネット予約を開始するなどサービス向上に努めた。	文化祭の実施の継続及び生涯学習教室の拡充を目指し、様々な分野からの教室を展開し、より多くの学びの場を提供できるよう努める。 基山町に赴任された教職員に基山町の歴史、特に特別史跡基肄城跡に関心をもって、児童・生徒向けの教材づくりをしていただくよう推進する。 少子高齢化による担い手不足などの喫緊の課題があり、若い世代に民俗芸能活動に触れる機会を設けるなど継承意識と活動の向上を図る必要がある。
(3) スポーツ	
基山町総合型地域スポーツクラブ「きのくに」では、ジュニアスポーツ教室や大人向け運動教室を実施した。軽スポーツ普及応援金事業を開始し、軽スポーツの普及促進を図っている。 地域の活性化・交流人口の増加・シティプロモーションのため、町内施設で開催されるスポーツ大会に対してスポーツ大会開催記念品贈呈事業を実施している。	町民が誰でも参加できるスポーツイベントを継続するため、区対抗スポーツ大会や町民体育大会の種目等を検討する必要がある。 基山町総合型地域スポーツクラブの教室事業を継続する。また、軽スポーツ普及応援金を周知し、地域の軽スポーツ活動団体を支援するとともにスポーツ推進委員が学んだ軽スポーツの普及に努める。
(4) 文化財の利活用	
ボランティアガイド養成講座を開設し、ボランティア史跡案内ガイドの養成強化に努めている。 必要に応じて、基肄城の案内を民間団体と協働で実施している。	ボランティア史跡案内ガイドの養成において、特に若い世代の人材を育成する必要がある。 少子高齢化による担い手不足などの課題に対し、広報やサポーター制度などを活用した支援を通して、民俗芸能の継承意識と活動の向上を図る必要がある。
3 にぎわい+idea 「基山発」を生み出すアイデアのあるまち	

取組状況	今後の課題
(1) 農林業	
地元生産者の農産物を魅力的にアピールし、消費者から選ばれる特産品としてブランド化を目指すため、高速道路基山パーキングエリアのふるさと名物市場での継続した販売促進を行い、過去最高の売上となった。 基山産の主食米をはじめ、マコモタケなどを収穫期に応じて、地元青果店等を通して学校給食に取り入れている。また、試験的に町内で無農薬・減農薬で栽培された農産物を学校給食の食材として提供を行った。 集落支援員の継続的に配置し、生産者の状況を密に把握し、昔からの柿やアスパラガスなどの特産品のほか、新たに産地となった国産ライチやトマトのブランド化を目指した。	多面的機能発揮対策に取り組む活動組織の高齢化が顕著で、担い手の不足も相まって、活動が困難な状況になりつつある。また、組織に加入している方は集落営農組織にも加入しており、集落営農組織も同様の状況になるなどの課題がある。
(2) 工業	
地域の実情に応じて高齢者の多様な就職機会の確保方策について協議を行う「基山町生涯現役地域連携協議会」において、厚生労働省の「生涯現役地域連携事業」に採択され、佐賀労働局から受託した事業を実施した。 基山職人の会にて基山駅に設置された「KIYAMA駅GALLERY」は、引き続き町内外へ「made in 基山」の魅力をPRしている。 また、産業振興協議会の会員と町外の方が多く集まるイベントへ参加・出店し、町内で製造された様々な「made in 基山」製品の魅力のPRに努めた。	厚生労働省の「生涯現役地域連携事業」の中で、企業の魅力発信に努めたが、参加企業数がまだまだ少ないなど課題がある。引き続き厚生労働省からの受託事業等を活用して、新たな魅力創造に努める必要がある。
(3) 商業	
地元事業者には、商工会と連携して小規模事業者持続化補助金等の国や県の中小企業支援策の情報提供を行うなど、事業継続への取組を支援した。 新たな移動手段の確保のため、デマンド交通の実証実験を行い、乗合デマンドタクシーの需要について検証を行った。 既存のコミュニティバスについては、町内のスーパー等にアクセスしているため、利用促進のために高齢者や免許証自主返納者への割引制度等を実施するとともに地区サロンや出前講座で制度説明を行っている。	基山町産業振興協議会を中心に、イベントへの出展や六次産業化を推進して、基山町の新しい魅力づくりに努める必要がある。 今後、町内の高齢化が進み更に買い物弱者が増加していくことが予想される。買い物等により利用しやすいコミュニティバスの制度の構築に加えて、新しいモビリティサービスの導入についても検討していく必要がある。
(4) 観光	
レンタサイクル、ターミナルロッカーを設置し、基山駅を利用する来訪者の利便性の向上を図り、交流人口の拡大及び地域活性化を推進した。 おもてなし環境の強化として、町境の主要幹線道路付近に基山町をPRする看板と、主要駅から基山	基山町産業振興協議会及び基山町観光協会と連携しながら、地域資源のブランド力向上を図るとともに、戦略的に基山町を売り出す（ブランディングする）体制づくりを検討していく必要がある。

取組状況	今後の課題
町内の観光スポット等への案内サインを設置した。また、町内の観光地である「大興善寺」近くの「小松公衆トイレ」の洋式化を行った。	
(5) 基山発	
ホームページをはじめとした様々なメディアによる情報発信を行っている。特に、Youtubeを活用した動画や町公式LINEを通じたプッシュ型の情報発信のほか、若者向けのSNSであるInstagramやTikTokなども活用し、より幅広い世代に魅力的に伝わる情報を発信している。 ブランディング名刺は観光協会の事業として定着している。また国民スポーツ大会のPRのためのオリジナル名刺の作成なども、所管課が自主的に行うなど、取り組みが広がっている。 マスメディアを活用したシティプロモーションの実施により基山町の魅力や価値を発信し、認知度・知名度等の向上を図っている。また、基山町のPR動画を作成し、基山町公式YouTubeチャンネルに掲載することで、魅力を発信した。	メディア等をより積極的に活用して、「基山(きざん)」や絶滅危惧種である「オキナグサ」、日本最古の朝鮮式山城「基肄城跡」などの基山の魅力発信に努め、町外にさらに売り込んでいく必要がある。そのためには、ボランティアガイド等の養成を進め、地元との連携を強化していくことや創作劇をととして基肄城跡の魅力発信に努める。
4 安心安全+idea 基山町に住む人を大切にするまち	
(1) 子育て支援	
基山っ子みらい館で、定期的に子育て交流広場と基山保育園の交流イベントを実施し、利用者がより気軽に利用できる保育環境の提供に努めている。また、子育て交流広場内に子育てコンシェルジュを配置して、育児の悩みや相談等に対応している。 高校生以下の子どもが医療機関にかかった際の費用の全額を補助し、保護者の負担を軽減した。 「きやま子育てガイドブック」を増刷し、町外からの転入時や外部の会議・研修時に配布し基山町の子育て環境の啓発を行った。また、窓口のタブレット端末やホームページ上で保育所やその制度を動画案内した。 ファミリーサポートセンター業務についても、子育て交流広場で行っているため、利用会員の情報が迅速に把握でき、円滑かつ効率的な運営を行うことができている。	保護者への支援の充実については、子育て交流広場等とつながっていないサポートが必要な子育て家庭について、基山っ子みらい館が地域の子育て支援拠点施設として、どのような支援ができるのか検討していく必要がある。 妊娠期から子育て期までの様々な不安や悩みが多様化しているため、母子保健コーディネーターや子育て支援コーディネーターを活用し、個別に対応していく必要がある。 ファミリーサポートセンター協力会員について、高齢等により活動の幅が狭くなっている会員が増加しているため、協力会員数を増やす必要がある。
(2) 高齢者支援	
生活支援コーディネーターを配置し、高齢者世帯訪問を行い、見守り体制の強化及び情報共有を図った。また、緊急通報システムや配食サービス等の安否確認により緊急時の対応の体制を整えた。 見守りネットワークと併せて「見守りシール」を導入し、徘徊高齢者等の見守り体制を強化した。また、認知症サポーターステップアップ講座の受講修了者を中心にチームオレンジを組織化した。	今後、高齢者数及び世帯数の増加が見込まれているので、地域での担い手となれる元気な高齢者の確保が喫緊の課題である。 チームオレンジの概要を各区に周知し、認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活できる体制を整備していく必要がある。 高齢により、利用できる移動手段が減少することで、外出することが困難になる高齢者も少なくない。

取組状況		今後の課題
	筋力アップ教室や音楽サロンなどの介護予防教室を開催した。また、介護相談会や認知症に関連した相談会を実施し、気軽に集える場を確保した。	い。そのため、家の近所に集える場所を確保することや、交通弱者対策の取組が早急に求められる。
(3) 障がい者(児)支援		
	相談支援センターを3箇所に増やし、相談支援の充実を図った。 社会福祉協議会のボランティアセンター事業を充実させるために、年3回ボランティア講座等を開催している。 成年後見に関するパンフレット等により周知を図り、相談等の際には制度の説明を行った。また、成年後見制度利用支援事業補助金を交付している。	鳥栖・三養基地区総合相談支援センターと連携し、相談支援の充実を図っていく。 多様化するニーズに対応できるように、ボランティア講座や、スキルアップ研修を開催し、ボランティアセンター事業の充実を図っていく。
(4) 健康・医療		
	久留米大学との包括協定に基づき、ふれあいフェスタにおいて専門医による健康ブースを設置し啓発に努めている。また、久留米大学からの助言・提言に基づき、第2期基山町健康増進計画を策定し、町民の健康づくりの意識向上を図った。 基山町における特定健診受診率は過去最高を記録したが、引き続き目標の60%を目指して受診勧奨に努めている。 久留米大学からの協力を受け、健診結果・医療費・介護費を総合的に分析し、保健指導に取り組んでいる。久留米大学が監修した健康統合管理アプリを活用した、遠隔での保健指導にも取り組んでいる。	基山町の健康課題である、「糖尿病」「腎臓病」及び高齢化に伴う認知症予防及びフレイル予防に関し、わかりやすい情報提供を行うことにより、健(検)診受診率の向上を図る。 特定健診の必要性などをさらにわかりやすく町民へ周知し、受診率向上に努める。 保健指導対象者に対し、複数回面談することにより、町民との信頼関係を築き、早期の段階での医療機関への受診勧奨につなげ、医療費適正化に努める。
(5) 防犯・防災		
	九州朝日放送との包括連携協定を機に、KBCテレビのdボタンを活用した避難所開設状況等の情報発信を行った。また、基山町公式ラインで、避難所開設状況等の情報発信を行った。 消防団員勧誘員制度を創設し、勧誘員による団員勧誘を行った。 小学生と中学生を対象とした防災出前講座を実施し、ハザードマップの見方や避難情報を得るための知識向上に取り組んだ。 防災倉庫を建設し、防災備蓄品として、段ボールパーテーションやテント、防災マット、簡易トイレ、簡易ベッドを整備した。	公民館や公園を緊急の避難所として利用する際の問題点等を洗い出し、解決策に対する共通認識を図る必要がある。 防災講習会等を通じて自助・共助能力の向上の必要性を認識してもらい、自主防災組織活動の活性化にも取り組む必要がある。 児童や生徒を対象とした防災講座を実施することにより、町全体の防災に対する知識と意識の向上を図る必要がある。
5 協働+idea 基山町のために結束できるまち		
(1) まちの結束		
	まちづくり基金を活用し、町民が地域で主体的に活動できるような環境づくりや情報提供を行い、地	まちづくり基金事業の支援期間が終了しても、継続的な活動につながっていくように情報提供を

取組状況	今後の課題
域活動を支援した。 地域担当職員が各区からの支援要請に基づき行政と各区を繋ぐパイプ役となることで、各行政区の活動の支援を行った。また、自治会活動コーディネーター事業において、各区公民館でのサロンや通いの場等の活動に参加し地域の活性化を支援した。	行い、コミュニティ助成事業については、行政区が支援を受けることができるように申請を促していく。 まちづくり活動団体の活動状況を年間通してHP等を活用し公開することで、町内で活動する団体のネットワークの広がりを引き続き支援する。 町民活動団体が自主的かつ主体的に行う地域活動を引き続き支援していく必要がある。
(2) 人権・男女共同参画	
同和問題市町講座として、同和問題を主とした行政機関対象の人権啓発に関する講座を行った。 広報に男女共同参画通信を掲載したり、男女共同参画週間に町立図書館で男女共同参画コーナーを設置し、学習の機会を創出した。 「女性に対する暴力をなくす運動」期間に広報に記事の掲載やポスターやチラシによる啓発を行い、また町立図書館でも「女性に対する暴力をなくす運動」関連図書コーナーを設置し啓発に努めた。 DV被害の相談があった場合は、内容を聞き取り佐賀県やアバンセと連携し支援を実施した。	啓発活動を継続していくとともに、講座への参加者増を図っていく必要がある。
(3) 情報公開	
文字のフォントを工夫し、多くの世代の方が読みやすい広報紙づくりを行っている。広報紙に関心を持ってもらえるように、特集記事なども掲載し、イラストや写真を活用し、手に取りやすく親しみやすいデザインにしている。 広報「きやま」による定期的な発信を行うとともに、「LINE」や「Facebook」「Instagram」「YouTube」など様々なSNSを活用し、リアルタイムな情報発信を行っている。なお、広報「きやま」は広報をめぐる環境や諸条件が変化する中、月1回の発行を行っている。	より多くの方に情報提供するために、広報紙に掲載する情報を分かりやすく整理するとともに、魅力的な紙面づくりを行う必要がある。 今後も広報「きやま」と様々なSNSの特性を活用し、町の情報をより多くの方にタイムリーに届けていく必要がある。 情報公開制度そのものの積極的な広報・周知活動に努める必要がある。 町民の知りたい情報を出前講座メニューに反映させるよう随時更新を行い、行政情報の提供に努める必要がある。
(4) 行財政	
納税者の利便性向上のため、従来の窓口納付や口座振替等に加えて、コンビニエンスストアでの納付やオンライン決済サービスによる納付、地方税共通納税システムによる納付などにも対応できるようになった。さらに、佐賀県税事務所に職員を派遣し共同徴収にあたるなど、関係機関と連携して、滞納額の縮減を図り、徴収率の向上に努めた。 有料広告掲載については、広報きやま、基山町ホームページのバナー、各種封筒に実施し、住民課カウンター・エレベータ内にも広告の募集を開始した。	使用料については、今後も定期的に使用料・手数料の見直しを実施し、適正な使用料等確保を図っていく必要がある。また、有料広告については、広告料収入の安定的な確保に向け、新たな広告主募集や広告媒体の検討を行う必要がある。 基山町公共施設等総合管理計画に沿った適正な進捗管理を行う必要がある。各施設管理者は個別施設計画に沿って確実な実施を行い、個別施設計画の更新を行う必要がある。 今後の社会情勢を考慮した地域コミュニティの維持・発展について、行政支援等を検討していく必要がある。